令和５年度の取組み実績について

１ 民間事業者のアイデア等を活用した普及啓発 として６件の取組みを行いました。

1. ユニバーサルデザインの理念を踏まえた落語会による普及啓発

60歳以上の参加の多い市主催のイベントにおいて、ユニバーサルデザインの理念を踏まえた落語会を実施し、普及啓発を実施しました。 1回目は、令和５年10月21日のアラカンフェスタにて、落語家の桂福点氏による障がい者理解をテーマとした落語会を開催し、約80名の観客を動員しました。２回目は令和5年11月26日のじょうもんさん天神市場に。フランス人落語パフォーマーのシリル・コピーニ氏による落語会を開催し、約200名の観客を動員しました。

1. 移動時を意識した公共交通機関におけるマナーアップポスターの制作、掲出

福岡市内を走るバス、西鉄電車、車内、駅構内、福岡市営地下鉄車内に「みんなにやさしいまちはあなたのやさしさから」というメッセージを込めたマナーアップポスターを制作し掲出しました。

掲出期間、場所、枚数は以下のとおりです。

・令和５年11月７日から２月26日にかけて西鉄天神大牟田線の中吊りに800枚を掲出

・令和５年11月8日から２月27日にかけて西鉄天神大牟田線市内7駅、貝塚線9駅に16枚を掲出

・令和５年11月８日から２月27日にかけて西鉄バス車内のデジタルサイネージ34台、94面に掲出

・令和５年12月２日から１2月７日にかけて地下鉄空港線、箱崎線中吊りに276枚を掲出

・令和５年12月１日から１月31日にかけて地下鉄全線の窓上に218枚を掲出

1. ＳＮＳとラジオを組み合わせた「ユニバーサルデザインマンス！」の実施

福岡市SNSアカウントで投稿する記事の企画として、多言語放送ラジオ局ラブエフエムにおいて11月にユニバーサルデザイン・マンスと題したコーナー放送を実施しました。全12回各回10分程度、12組の著名人がユニバーサルデザインをテーマにトークを実施し、放送後に直筆パネルを手に写真撮影を行い、トーク内容を抜粋してＳＮＳに投稿しました。ラジオの放送時期と出演者は以下のとおり。

第1回　11月1日放送、企画調整部濱口

第2回　11月7日放送、元女子バレーボール日本代表 新鍋 理沙様

第3回　11月8日放送、アコースティック・デュオ、ビーザボイスボーカルの和田純子様

第4回　11月8日放送、アイドルグループ、リンクの高木悠未様、有村南海様

第5回　11月14日放送、元プロ野球選手の森福充彦様

第6回　11月15日放送、フクオカナウ編集長のニック・サーズ様

第7回　11月15日放送、落語家の桂福点様

第8回　11月21日放送、元プロサッカー選手の小林久晃様

第9回　11月22日放送、車いすフェンシングアスリートの加納慎太郎様

第10回　11月22日放送、劇団万能グローブガラパゴスダイナモスの椎木樹人様

第11回　11月28日放送、ＤＪジェフ太郎様とＤＪアンナ様の対談

第12回　2月16日放送、ＤＪユリ様

1. ユニバーサルデザイン体験会の実施

市民や事業者等の参加を促す企画として、天神、博多にある商業施設のスタッフなどが参加し、天神におけるユニバーサルデザイン体験や意見交換会を実施しました。ゲスト講師の九州大学大学院芸術工学研究院准教授のジャン先生によるユニバーサルデザインに関する講義、福岡市介護実習普及センター作業療法士の八尋氏による体験キットの説明を受けた後、参加者20名が、普段の自分と異なる体験をし、その体験を来訪者への対応や接客に活かすという観点で車いす、白杖、高齢者体験スーツを使用しながらまち歩きを行いました。開催日時、開催場所は以下のとおりです。

令和６年２月１日11時から16時

福岡市営地下鉄七隈線天神南駅構内、西鉄福岡天神駅北口、西鉄天神高速バスターミナルで実施。

1. 福岡市公式ＳＮＳアカウントによる市の取組みの紹介

ユニバーサルデザインの理念に基づく取組みについてＳＮＳで定期的に紹介しました。公式インスタグラムでは、発達障がい者支援センター等の機能強化、市営住宅車いす使用者世帯向け住戸の拡充、世界水泳会場ユニバーサルエリアといった取組みについて投稿しました。令和５年３月時点のフォロワー数は995人でしたが、令和６年４月は1138人となっており、フォロワー数は増加傾向です。

⑥ 民間事業者のアイデア等を活用した普及啓発活動の方向性について

18歳から20歳代の認知度は上昇傾向である一方、高齢者層の認知度は伸び悩む状況が継続しているため、引き続き高齢者層へ訴求するような普及・啓発の方法を検討していく必要があると考えております。また、今年度初めて実施したユニバーサルデザインの理念を踏まえた落語会は、一度にリーチできる人数は限られますが、参加者には非常に好評であったため、リアルイベントの開催も含めて普及・啓発の方向性を検討していきます。

参考　令和５年度市政アンケート調査の結果、ユニバーサルデザインの理解度は、18歳から20歳代は78.8％、60歳代は47％、70歳代以降は40.9%であり、引き続き世代間の理解度の差が大きい状況となっています。

民間事業者のアイデア等を活用した普及啓発活動の紹介は以上です。

２ 広報物による普及啓発の取組み

ユニバーサル都市・福岡の取組みを紹介する広報物としてリーフレット・ポスターを制作しました。ユニバーサルデザインの普及が進む中で、市民の皆さまが身近にあるユニバーサルデザインに気が付いていないということを想定し、まちの中にある様々なユニバーサルデザインを紹介するという形式で制作を行いました。事例としては、インクルーシブな子ども広場にある段差の付いた砂場、交通機関などにあるピクトグラム、入口の大きな改札、飲食店の写真入りメニューなどを取り上げています。

広報物による普及啓発の取組みの紹介は以上です。

３ 福岡版ユニバーサルマナー検定の実施

例年に引き続き、高齢者や障がい者への接し方、配慮のポイントなどについて学ぶことができる福岡市オリジナルの講座福岡版ユニバーサルマナー検定をオンラインを３回、会場受検を２回実施しました。受講者全員がユニバーサルマナー検定３級資格を取得しました。

・講義内容について

障がいとは何か、高齢者や障がい者への向き合い方、困っている人を見かけたときのお声がけ方法、コロナ下での障がい者の生活と心理。コロナ下での障がい者の生活と心理は福岡市オリジナルの講義。

・演習について

市の身近なユニバーサルデザインの事例などと新しい生活様式の中でも実践できるユニバーサルマナー

・受講料について

5,500円

・実績について

令和5年度の受講者数は79名でした。なお、令和４年度の受講者数は82名、令和３年度は230名、令和２年度は453名であり、減少傾向となっています。

・受講者の声

声かけはもちろん、気づきも大事なことだと思った。自分自身もスキルアップしていきたいと思う。具体的な声掛けの言葉やサポートの際の心構えを知ることができたので、今後サポートをする場面が訪れたときに以前よりも自信をもって声掛けや行動ができそうだと感じた。仕事や生活で役立てたい。など

福岡版ユニバーサルマナー検定の今後の方向性について

４年間で８４４名が資格を取得し、着実に成果が出ている一方で、受講者は年々減少しており、関心のある層の受講は完了したと考えております。また、オンライン検定を3回実施したが、いずれも集客が難しい状況でした。また、受講いただく方の年齢も幅広く、高齢になるにしたがってオンライン受講が厳しいという連絡が事務局に数件寄せられたこともあり、今年度は事業者とも協議し、すべて会場受検に切り替える形も検討していきます。

福岡版ユニバーサルマナー検定の実施については以上です。

４ 市職員研修の実施

ユニバーサルデザインの考え方やユニバーサル都市・福岡の理念、「各所属でできること」といったテーマについて、令和５年６月に全職員を対象とした職員研修（ｅラーニング）を実施しました。受講率は12554人中9313人で74.2%でした。令和４年度受講率は11,725人中8,366人で71.4％でした。

市職員研修の実施今後の方向性について

引き続き、市職員として必要な知識の習得にeラーニングを活用していきます。一方で、年に１回の研修ではユニバーサルデザインに関する知識や情報を得る機会が少ない点が課題であるため、職員用ＷＥＢページにて定期的な情報発信を行うなど、日頃から職員がユニバーサルデザインの理解度向上を図れるような仕掛けを構築していきます。

市職員研修の実施については以上です。

５ 「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本の改定

主に小学４年生向けの、ユニバーサルデザインを学ぶための教材（平成25年度制作）について、時代に見合った内容にアップデートするため、令和４年度に改訂委員会を開催し、改定の方向性について議論を行いました。今年度は、改定委員会の意見として出された使いやすさ、共有のしやすさ、デジタルツールへの依存性の少なさ、情報保障の観点を総合的に勘案して、ウェブサイトの構築を行っていきます。

児童向け副読本の今後の方向性

令和４年度と同様に改訂委員会を開催し、委員会の意見をいただきながら事業を進めていきます。ウェブサイトの構築事業者は、仕様を確定した後に提案競技で決定します。ウェブサイトの制作状況を改訂委員会で共有し、委員会で出された意見を都度反映するような形式でアジャイルに進めていきます。

児童向け副読本の改定のスケジュール案

・5月に仕様案として、全体コンセプトを整理した上でトップ画面の構成、メニュー表示、章構成の作成をおこない、現行の副読本から引き継ぐ内容や時代に合わせた新しい要素などの盛り込むコンテンツの抽出を行います。

・6月に改定委員会を開催し、事務局作成の仕様案に対するご意見をいただきます。

・7月に提案競技による事業者選定を行います。

・8月から改定業務を開始し、定期的に改訂委員会にて制作状況を共有します。

「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本の改定については以上です。

6 成果指標

令和５年度市政アンケートの結果は以下のとおりでした。

・ユニバーサルデザインの概念の理解度

令和6年度の目標値70％に対して、令和5年は53.7％でした。これまでの推移は次のとおりです。平成23年度44.9%、平成243年度50.3%、平成253年度47.2%、平成263年度48.7％、平成27年度46%、平成28年度46.4%、平成29年度48.1%、平成30年度41.3%、令和元年度48.4％、令和2年度58.3％、令和3年度57.5％、令和4年度53.2％

・ユニバーサルデザインの取り組みへの評価

令和6年度の目標値65％に対して、令和5年は52.9％でした。これまでの推移は次のとおりです。平成23年度30.5%、平成24年度40.3%、平成25年度35.9%、平成26年度39.3％、平成27度年37.4%、平成28年度35.8%、平成29年度39%、平成30年度32.4%、令和元年度44.5％、令和2年度44.3％、令和3年度54％、令和4年度41％

・ユニバーサル都市・福岡のロゴマークの認知度

令和6年度の目標値65％に対して、令和5年は46.5％でした。これまでの推移は次のとおりです。平成30年度36.3%、令和2年度54.2％、令和3年度58.4％、令和4年度51.8％、

成果指標については以上です。

令和5年度の取組実績は以上です。